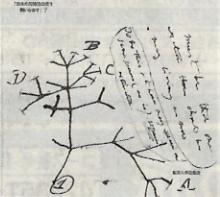


開発協力のつくられ方

佐藤 仁著

書

開発協力のつくられ方
自己と世界の生態史
佐藤 仁



自国民の税金を使って他国の
発展を助ける政府開発援助（O
DA）は、第2次世界大戦後に
始まった。かつての最大の供与
国のは明け渡したもの、実
情が不透明な中国を除いてなお
世界4位の日本の援助史を、東
南アジアを舞台に分析した。
敗戦後に米国から援助を受け
る立場だった日本が、援助にひ
も付けた工業製品の輸出市場、
原材料の調達先を求め、早々と
援助する側に名乗りを上げた事
情から説きこす。その後の論
旨展開の秀逸さは2点ある。

第一は構成だ。時系列を3つ

に区切って論じるのは普通だ
が、各時期を援助する日本政府、
受け入れる相手国政府、実施さ
れる現場に分けて立体的に描き
出し、非常にわかりやすい。

近視眼では判断できぬ実態

第二は現状分析である。タイ
やインドネシアは依然として援
助の受け手ながら、同時に後発
国を援助する側としての顔を持
ち始めたことを紹介している。
また環境や生活を破壊すると激
しい反対運動にさらされた「問
題案件」が、現在はどうなっ
ているかを追跡調査したのは、斬
新な視点といえる。

著者自身も意外だと指摘する

ように、かつて問題視された施
設が今でも地元民に利用され、
むしろ感謝されているケースは
多いという。近視眼的な是非だ
けでは判断できない援助の難し
さ、奥深さが浮かび上がる。（東
京大学出版会・4400円）

2021
8/17
日経